
2016年度(第94期)事業報告書

技術と社会部門：

部門長 佐々木直栄 運営委員 43名, 総務委員 13名

運営委員会開催 2回, 総務委員会開催 4回 (内臨時 1回)

- 1) 部門運営委員会およびそのもとに設置された総務委員会, 広報委員会, 表彰委員会, 機械遺産委員会, ロードマップ委員会, ホームページ管理運営委員会, 国際会議実行委員会, イブニングセミナー企画委員会, イブニングセミナー実行委員会, 工学・技術教育委員会で部門運営にあたった。
 - 2) No.16-1 2016年度年次大会(9月11~14日, 九州大学)において, OS4件(部門単独2件, 他部門と合同2件), WS4件(部門単独3件, 他部門と合同1件)を企画・開催した。OSの内訳は, S201 機械技術史・工学史7件, S202 工学・技術・環境教育12件, J020 ライフサポート11件(5部門合同), J181 交通・物流機械の自動運転8件(交通・物流部門と合同), G200 部門一般セッション4件である。また, 各実行組織の報告事項として後述するが, 機械遺産委員会による機械遺産のパネル展示(年次大会実行委員会と合同)と市民対象行事2件(いずれもエンジンシステム部門と合同)を企画・開催した。また, 9月12日に部門同好会を九州大学伊都キャンパス内の中華料理「天天」で開催し, 11名が参加した。
 - 3) 機械工学年鑑2016の22章を, 22・1 概観(綿貫 啓一前部門長), 22・2 技術・工学教育(佐藤智明委員), 22・3 技術史・工学史(緒方正則委員), 22・4 産業遺産・機械遺産(池森寛委員), 22・5 技術者倫理(高田一委員)が執筆した。
 - 4) トピックス委員に, 綿貫啓一委員および高橋芳弘委員を派遣し, 学会運営に協力した。
 - 5) 広報委員会は, 部門ニュースレター(NL) No.34を部門ホームページ上で発行した。2016年度中に No.35 を発行する予定である。
 - 6) 機械遺産委員会は, 2016年度認定機械遺産候補を選定し, 7件が認定された。
 - 7) 機械遺産委員会は, 2016年度機械の日における機械遺産認定式典(8月7日, 東京大学弥生ホール)に出席し, 認定機械遺産7件を解説・報告し, 開催に協力した。
 - 8) 機械遺産委員会は, 2016年度年次大会において, 市民公開行事として, 実行委員会とともに日本機械学会認定「機械遺産」のポスター展示を行い, 新規認定分7件をパネル(印刷物)にて, 既認定分76件をPCによるスクリーン(LCD)展示にて紹介した。
 - 9) 福岡市博物館において開催された「近代文化遺産の魅力」再発見トークイベントの一環として, まず, 技術と社会部門機械遺産委員会の2016年度委員長であった吉田敬介氏が2016年11月20日に「機械遺産アロー号の魅力」と題した基調講演を行った。また, それに続き, 同年12月10日に「残して活かす近代化遺産・機械遺産」と題したシンポジウムが開催され, 同委員会の2016年度委員の市原猛志氏や国立科博博物館の鈴木和義氏(2016年度本会機械遺産監修委員会委員)らがパネリストとして参加した。
- ※機械遺産委員会は, 去る2016年8月17日に和歌山テレビで放送された機械遺産「樫野罪灯台の光学機械装置」の紹介記事作成に協力した。
- ※機械遺産委員会は, みずほ総研機関誌の[Fole] 2017年1月号 p14-p19に掲載の「物づくり精神の結晶『機械遺産』」と題した記事作成に協力した。
- 10) 表彰委員会は, 11月26日開催の2016年度部門講演会(仙台市)後の部門懇親会において, 吉田敬介氏(九州大学)に部門賞の功績賞を贈賞した。
 - 11) 表彰委員会は, 運営委員会の審議結果に基づき, 星朗氏(東北学院大学)を2016年度組織推薦によるフェロー候補として応募し, 理事会において承認された。
 - 12) 表彰委員会は, 2016年度部門賞(功績賞, 業績賞)と部門一般表彰(優秀講演

論文表彰)の候補について1月5日に応募受付を締切り、審議中である。

- 1 3) イブニングセミナー企画委員会/イブニングセミナー実行委員会 委員長2名他8名にて、イブニングセミナー企画委員会のメンバーが中心に講演講師を選出し決定。イブニングセミナー実行委員会のメンバーが中心にイブニングセミナー11回を明治大学 駿河台キャンパスにて開催した。
- 1 4) 技術倫理委員会では、5月14日と11月12日に特別講演会「技術者のための技術者倫理セミナー」を東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京にて開催した。それぞれ13名と18名の参加者があった。
- 1 5) 技術倫理委員会では、セミナー企画および実施のため、4回の打ち合わせを行った。
- 1 6) 工学・技術教育委員会は、2016年度年次大会(九州大学伊都キャンパス)において、エンジンシステム部門と共同で、9月11日に市民対象行事として「お湯で動く模型スターリングエンジンの理論と実習」を実施した。講演者2名を除き11人の参加者がいた。2016年度に発行予定のニュースレターにて報告する予定である。
- 1 7) 工学・技術教育委員会は、大分大学との共催で、ホルトホール大分エントランスホールおよび407会議室を会場に、10月15日に第6回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会を開催した。10団体が出品し、26人が出席した。本行事については2016年度に発行予定のニュースレターにて報告する予定である。また、大分合同新聞2016年10月25日朝刊23面に写真と共に報道された。
- 1 8) 工学・技術教育委員会は、2016年3月の関東支部講演会(3月10日(木)~11日(金)、東京工業大学)において、技術・工学・環境教育セッションの企画立案および運営を行った。2016年度年次大会(9月11日(日)~14日(水)、九州大学伊都キャンパス)において、OS(S202工学・技術・環境教育)を提案し運営した。また、2016年度部門講演会(11月26日(土)、宮城教育大学)において技術・工学・環境教育セッションの企画立案および運営を行った。また、過去10年間の年次大会における技術教育および工学教育に関する近年の研究発表の概要をまとめた冊子を計画しており、発行方法について検討した。(原稿執筆者を選定し、改めて原稿執筆を依頼して冊子を作成する予定である)。
- 1 9) 持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会は、日本大学工学部との共催で、第9回新☆エネルギーコンテストを開催した。併せて、ホームページの立ち上げ(部門ホームページからリンク)、イベントへの協賛企業(賞品提供および審査協力)確保、概要集の出版を行った。また、韓国と開催地とのウェブ中継およびポスター展示による国際交流部門を企画・実施した。詳細は2017年1月発行予定のニュースレターにて報告予定である。
- 2 0) No.16-207 The 8th International Conference on Business and Technology Transfer (ICBTT 2016) 第8回経営と技術移転に関する国際会議(12月1~3日、独国マグデブルグ大学)を開催した。参加者は21名であり、招待講演3件、一般講演12件、ワークショップ講演1件があり、活発な討論がなされた。本国際会議は、経営と技術移転や工学教育をはじめとした講演や討論、大学施設見学やテクニカルツアーを通じた情報収集などにより、参加者にとって充実した国際的な交流や情報交換が図れた。

以上